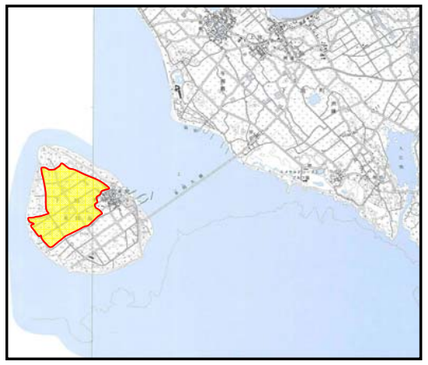
《県営ほ場整備事業》

# 宮古島市 来間西地区

## 地区の概要

下地町は、宮古島の南西部にあり、さとうきびを中心とした農業地域である。また海岸線は、東洋一といわれる与那覇前浜にみられるような砂浜を形成した美しい景観を呈している。

当該地区は、下地町南西の来間島に位置し、宮古島とは来間大橋により結ばれており、昭和５９年に県営ほ場整備事業『来間西地区』として着手され、受益面積７０．０ヘクタール、事業費１１億４，０００万円により、平成１０年に完了した地区である。また関連事業として平成７年よりかんがい施設が整備され、平成１２年に完了している。

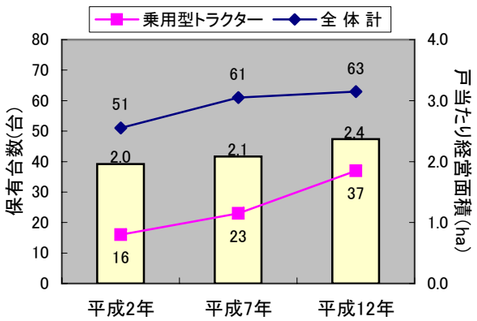


来間西地区位置図

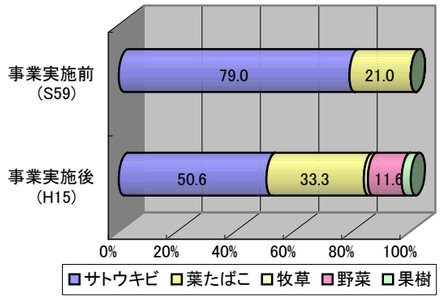
## 使いやすい農地へ

本地区は、事業実施前は耕土深が浅いうえに区画が不整形で農道、排水路も未整備なため、農業生産性が低い状況にあった。事業実施後は、区画整理により整然とした区画となり、農業の機械化が可能となったことで、乗用型トラクターをはじめとした大型農業機械の保有台数が増加傾向にあり、着実に農業の省力化が図られている。また戸当たりの経営面積も増加もみられ、担い手農家も現在までに８人が認定されている等、農業経営基盤の強化が図られている。（図－１）

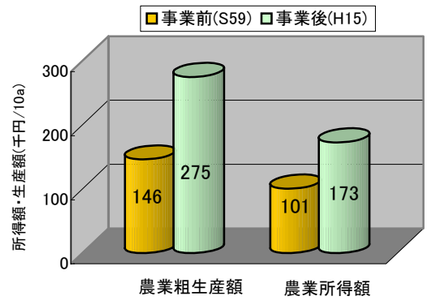
（図－１）農業経営基盤の強化




（図－２）高収益作物の導入




（図－３） 事業前後の所得比較




## これからの農業の展開

当地区では、事業実施前はほとんどがサトウキビ、葉たばこであった。それが実施後の作物転換によってサトウキビからかぼちゃ、玉ねぎ、マンゴー等の高収益作物へと転換した。（図－２）それにより農業所得が向上し、農業経営の安定化が図られた。（図－３）特にかぼちゃはサトウキビの裏作及び間作として近年、急速に栽培面積を増やしている。また下地町において、とうがんが拠点産地指定を受けたこともあり、今後、栽培面積が増加することが予想される。

しかし一方では、①土地改良施設について、現在までのところ受益農家によって適切な管理が行われているが、農家の高齢化が進んでおり、今後に不安が残る状態である。②防風林の生育が悪く、機能が発揮されていない、等の課題も見受けられる。

当地区は、平成７年に来間大橋が開通したことで、農作物の流通体系が改善され、また観光客も増加しており、今後は、地域の特色のある作物の生産及び観光産業との連携も視野にいれた農業振興地域の活性化に取り組んでいきたいものである。

## 事業実施の効果

このように、事業実施後の効果として

①機械導入による省力化

②農地の集約化による省力化・効率化

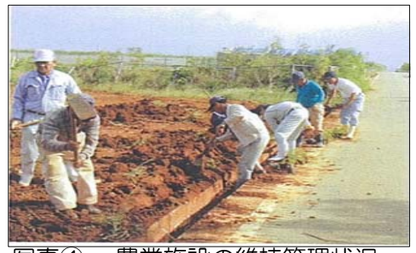
③作物選択の拡大による農業所得の増加

④区画整理、浸透池等の整備による赤土流出防止

写真①　ハーベスターの稼働状況

写真②　葉たばこの栽培状況

写真③　かぼちゃの栽培状況



写真④　農業施設の維持管理状況